

国 語 問 題 紙

2025 年 3 月 9 日

10:20～11:20 (60分)

答案作成上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙の中を見てはいけません。
2. 国語の問題紙は **国語 1** から **国語 12** までの12頁です。
3. 解答用紙は、記述解答用の **国語解答 1** とマーク解答用の**解答シート**の2種類です。
4. 監督者の指示にしたがって、**解答シート**には受験番号、氏名を記入するとともに、受験番号をマークし、さらに受験科目欄に国語と記入した上で**科目コードの国語**に対応するコード**Ⓐ**にマークすること（裏表紙の例示を参照のこと）。
5. 試験開始後、監督者の指示にしたがって、記述解答用紙 **国語解答 1** には受験番号と氏名のシールを貼付すること。
6. 問題紙・解答用紙に印刷の不鮮明なところなどがあった場合には、監督者に申し出ること。
7. 【記述解答】の表示がされている問いについては、**国語解答 1** の指定の箇所に解答すること。
8. 記述解答では、句読点や（ ），記号も一字として数える。
9. 問題文中または文末等に、☐ の表示がされている問いについては、**解答シート**に解答すること。
☐ 中の数字が**解答シート**の解答列番号に対応しているので、例えば **①** と表示のある問いに対して**10**と解答する場合には、解答列1の**⑩**にマークすること。
10. **解答シート** 解答上の注意事項
 - (1) 解答は、必ず鉛筆（F，HB）を使用すること。
 - (2) シートは汚したり、折り曲げたりしないこと。
 - (3) 一つの解答列に二つ以上マークしないこと。
 - (4) マークが正確にされていない場合には採点されないことがあります。
 - (5) 訂正するときは、プラスチック製の消しゴムを用いて消し残りのないように消し、消し屑を残さないこと。
11. 試験時間終了まで退室してはいけません。

問題一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点 50)

人間の精神はヤーヌスのように二つの顔を持っている。^(注)一方では、有限なもの、物質的なもの、役に立つものを求める。これはおおらかに肯定されるべき重要な欲求だ。他方、われわれの中には、無限のもの、精神的なもの、無駄とも見えるようなものを好奇の気持ちから求めるといふ傾きがある。われわれが、冗談やフィクションを好むのはそうした欲求の例であろう。こうした人間精神の二面性のうち、どちらが強まるのかは政治経済体制 (regime) に依存するところがある。デモクラシーのもとでは、この二律背反的な人間の精神はどのような形で現出するのだろうか。

古代ギリシャの哲学者は、政治形態を、その体制で生きる人々が何に最大の価値を置いているかによって分類した。何を大事にするのが人間の魂の形を規定すると考えたのである。このような体制の分類は、モンテスキュー、^(注)トクヴィルなどの近代政治思想にも受け継がれている。自由と平等に最大の価値を置くデモクラシーも、人間の魂に独自の形を与えていると見るのである。

トクヴィルは、「条件の平等化」を基本原則とする民主制のもとでは、多くの機会を平等に与えられた人々が、有限なもの、物質的なものへの関心を強め、経済的厚生を求めて「競い合う」という点に注目した。激しく競い合えば、互いに他者よりも早く抜kindでようとして自ずと人間は忙しくなる。この「多忙」という要素は、デモクラシーを特徴づける重要な要素だとトクヴィルは見るのだ。デモクラシーのもとでは、スポーツと物思いにふけっている人間は珍しくなった。

「多忙」の影響は音楽にも及んでいる。市場経済のもとで豊かになった中産階級は、音楽鑑賞に時間と金銭を費やすようになっただけでない。複製技術の発展が、コンサート会場やオペラ劇場に行かなくても、機器で再生された音楽を楽しむ機会をもたらした。極端に言えば、「いつでも、どこでも」音楽は再生可能になったのである。その結果、人々から自律的に精神を集中させて音楽を聴くという姿勢を奪うようになる。^(注)アドルノが指摘したように、複製技術は、忙しい音楽愛好家の集中力を弱め、鑑賞という行為を散漫なものにするようになった。このような多忙さと注意力の欠如は、芸術を生活の彼方にある「実在としての美」の表現と考える形而上学的姿勢を見失わせ、具体的で分かりやすい美への欲求を肥大させ、伝統や形式を軽んずる傾向を強めるようになるのだ。

競争で生活が忙しくなった結果、人々は生活を美しく飾ることへの関心よりも、多忙な生活を効率的で楽にすることに傾注する

ようになるとトクヴィルは指摘する。「もつとも迅速に」、「もつとも廉価に」という方向だ。貴族制という「境遇の恒常的な不平等」を許容する体制が、一部の人を抽象的な美の追求や真理の探究といった実りの少ない活動に集中させるのに対して、デモクラシーの社会では時間にかかる精神活動は軽視されるようになる。■(問八参照)

制作者側には何が起こっていたのだろうか。(中略) 貴族制社会では、ほとんどすべての芸術家や職人たちは、それぞれの職業分野がひとつの団体を形成し、職業団体としての意見と誇りを持ち合わせていた。この点に注目しつつ、トクヴィルは職人たちの行動の基準は、「自分の利益でもなく、顧客の利益でもなく、団体の利益」にあつた点に注目している。職人団体の利益は、一人一人が傑作を作り、それが職人団体全体の榮譽に結びつくところにある。デモクラシーとは異なり、^(二)貴族制社会では、職人の目標は「できる限り良質なものを作ること」に向けられた。

こうした職人たちの行動規範は、日本の封建社会における職人たちの「制作動機」について述べた幸田露伴(一八六七～一九四七)の指摘とも重なる。露伴は「公德公益と私徳私益と」と題して次のような「私益公益」論を展開している(『実業之世界』大正二年八月上旬号)。

まず徳について露伴は、私徳と公德が、「結果から言へば二途、^(三)本源から言へば一水」であり、「私徳の円満なる人は公德に欠く」といふことも無く、公德に円満なる人が私徳に欠くるといふことも^{すくな}少い訳である」から、私徳も公德も同じ^{(注)ちよくしん}直心の美しい光源から発せられたものであり、その光が当たるところによつて、公と私の区別がなされているに過ぎないと見る。私徳と公德はその源を同じくしており、この光を進行方向の逆から見れば、真の公德と真の私徳は(真であればこそ)収束すると考える。

同様に、露伴は、公益と私益にも類似の構造があるという。私益が公益になる例として、一婦人が工夫をした^{(注)かすり}絁が、その地方の特産品となり、その地方の人々がこれによつて仕事を得るようになるという例を挙げる。さらに公益が私益になる例として、露伴は、同業組合内における自己規制を例として挙げる。製造業者が、公益を重んじて X 製造を慎み、品質の向上に努めれば、そのために信用を^(ア)博し、需要の増加が起こつて個々の職人の事業の発展につながるようなケースである。

(中略)

私益の追求が熱烈過ぎると、ややもすると、「私益と公益が一致、或は正比例的関係を存するを必要とすることを忘れて」、公益

は公益、私益は私益というように、別々に考えるようになり、やがては「一団体、一組合、一地方、乃至一国、世界の利益を傷害しても自己の利益を図らうとするやうに」なる。こうした「魔王の奴僕」^{(注)どほく}は、結局、当該個人にも益せず、国家にとっても不利益となると露伴は説くのだ。

デモクラシーのもとでは、個と全体が完全に分離し、私益と公益が別物と把握され、それをどう一致させるのが問題とされる。しかしこうした問題設定は貴族制社会では生まれなかったと考えられる。

機会の平等が与えられた近代デモクラシーの社会では、人々は経済的 a が最も確実な幸福への道だと考え、経済的な成功を目指して競争するようになる。すでに指摘したように、こうした競争によつて誰しも自分自身の事柄に多忙になるため相互に無関心となり、人々は自分の世界に閉じこもるようになる。その結果、社会的な紐帯が弱まり、人々がバラバラになってアトム化^(注)して行く。

このような「個人主義」は、職人たちの世界にも浸透するとトクヴィルは見ていた。最小のコストで最大限の経済的利益を求めることに関心を向け、何につけ便利な方法を探しはじめる。そのために技術を改良し、より迅速でより巧妙な生産方法を導入するか、X 悪品」をより大量に製造するようになる。幸田露伴が描く私益と公益が自ずと一致する世界から次第に乖離^{かいり}して行くのだ。もちろん、デモクラシーのもとですぐれた作品がつくられることもある。時間と労力に相応の報酬を支払う顧客が現われれば、優れた芸術品は誕生しうるのだ。

デモクラシーの時代の芸術愛好家の多くは、貴族制の時代のように富裕ではない。ほどほどに豊かなのだ。しかし欲望のほうは富や所得よりも急速に膨張するため、人々は手近に芸術を享受できる安易な近道はないかと探しまわらようになる。加えて、人は他人の趣味や流行に敏感なため、芸術の美に関心を向ける人の数は増加する。だが往時の王侯貴族や教皇・大司教たちのように、^(四)「大金持ちで趣味のよい消費者」は稀な存在となる。

トクヴィルはこのような認識に基づいて次のような見通しを持つ。美術品の数は増えるが Y でた作品は少なくなる。個々の職人がバラバラになって自分の作品を制作するデモクラシーの時代と、自分たちが属する団体の名声と誇りを念頭に置きながら制作に励む貴族制の時代とでは、生み出される作品の質は自ずと異なってくるのだ。このように考えると、「文壇」^(注)や「画

壇」、あるいは（シヨパンやシューベルトが活躍したシューベルティアードのような）「サロン」も、職人たちの社交の場としてだけでなく、芸術作品の質を b するための一定の機能（友人たちからの支援と評価）を持ったことが分かる（C. H. Gibbs, *The Life of Schubert*）。

（猪木武徳『社会思想としてのクラシック音楽』から）

（注）

- ・ヤヌスⅡ古代ローマの神。頭の前後に二つの顔を持つ。
- ・モンテスキューⅡ十八世紀に活躍したフランスの思想家。
- ・トクヴィルⅡ十九世紀フランスの歴史学者・政治学者。
- ・アドルノⅡドイツ出身の哲学者・社会学者・作曲家。
- ・直心Ⅱ正しくまっすぐな心。
- ・緋Ⅱ織物の種類の一つ。
- ・奴僕Ⅱ下男。召使。
- ・アトムⅡ原子。
- ・文壇、画壇、サロンⅡそれぞれ文学関係者、画家、芸術家の集まり。

問一 二重傍線部(ア)の動詞「博する」を用いた文として適切でないものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

①

- 1 この会社は不動産の売買で巨利を博した。
- 2 八十年代の音楽が今再び人気を博している。
- 3 裁判で和解を博することができた。
- 4 名声を博したあの俳優も晩年は不遇だった。

問二

空欄 a、

b

に入る表現として最も適切なものを、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選びなさい。

a

②

b

③

a 1 安寧

2 利器

3 突破

4 達観

5 衛生

b 1 決議

2 採択

3 温存

4 担保

5 快諾

問三

傍線部(一)とあるが、本文中で述べられているデモクラシーのもとでの人間のありかたの特徴として適切でないものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

④

1 他者との激しい競争を行うようになり多忙になる。

2 芸術に関心を持つ人が増え、本質的な美への欲求が肥大する。

3 有限なもの、物質的なものに対する関心が強くなる。

4 効率性を重視し、精神活動に時間を費やしたがらなくなる。

5 人々が互いに無関心になり、社会的な結びつきが薄れる。

問四

傍線部(二)とあるが、それに対してデモクラシーという政治体制のもとでは職人の目標はどのようなことに向けられるようになったと述べられているか。次の空欄 I に当てはまる適切な表現を、本文中から十五字以上二十字以内で抜き出し、解答欄に記入しなさい。【記述解答】

I

ことに向けられるようになった。

問五

傍線部(三)「本源から言へば一水」という比喩は具体的にはどういうことか。次の空欄 II に当てはまる六字以内の表現にまとめ、解答欄に記入しなさい。【記述解答】

私徳と公德の II ということ。

問六

本文中に二箇所ある空欄 X には同じ漢字が入る。適切な漢字一字を、解答欄に記入しなさい。【記述解答】

問七 傍線部(四)「大金持ちで趣味のよい消費者」は貴族制の時代の芸術にとってどのような役割を果たしていたと述べられているか。最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑤

- 1 目先の利益に捉われず、時間をかけて美を追求するような芸術を支援する役割。
- 2 芸術家や職人たちの職業団体が国家に不利益をもたらさないよう監視する役割。
- 3 公益の代表者として、芸術家や職人との過当競争が起こらないようにする役割。
- 4 芸術作品の美を見極めて収集し、人々に鑑賞の機会を与えて美を享受させる役割。

問八 空欄 Y に入る最も適切な表現を、本文の記号■より前の部分から三字で抜き出し、解答欄に記入しなさい。

【記述解答】

問九 次のア～ウについて、本文の内容と合致するものには「1」、合致しないものには「2」をそれぞれマークしなさい。

ア

⑥

イ

⑦

ウ

⑧

ア 複製技術の発展によって音楽鑑賞の機会が増え、人々が芸術の共有を楽しむようになった。
イ 幸田露伴は、人々は私益を追い求めずに公益を目指すべきだと論じている。

ウ デモクラシーの時代には、時間やお金をそれほどかけずに手に入る芸術を望む人が増える。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点 50)

① ここまで見てきたとおり、童謡・唱歌における具象化の試みは、虚構的な「日本人の心のふるさと」を空想させるためのインデックスを設定しようとする営為である、と評せそうです。しかし、実はそうしたインデックスの存在は、決して童謡・唱歌に関してのみ限定的に確認されるものではありません。それはたとえば、今日一般に「アニメ聖地巡礼」などと呼ばれる実践において見出されている「聖地」の性格とも、非常に近いものだと言えます。

② 詳しく見ていきましょう。「聖地巡礼」とはもともと、特定の宗教において重要とされる場所（聖地）に信者たちが赴く行為を指す言葉でしたが、近年では少し異なる文脈でも用いられるようになっていきます。a、娯楽性の高い現代的なコンテンツ、たとえばアニメやマンガ、ゲーム、小説、ドラマ等のファンが、当該作品と関係の深い場所を探し出し、その地に足を運ぶ実践を指しても、聖地巡礼という言葉が使われるようになっていくのです。

③ そうした現代的な（アニメ等に由来する）聖地巡礼において、探訪の目的先である「聖地」は、必ずしも著名な観光地や神社などの宗教的施設であるとは限らず、ごく普通の学校や公園や商店街であることも少なくありません。またそれらの土地は作品のなかに直接登場するばかりでなく、たとえば作品のキャラクターと同名の土地や店舗が、名前の共通性を根拠に「聖地」とされる場合もあります。ただ、いずれの場合にしても共通しているのは、それらの「聖地」が特定のコンテンツのファンである巡礼者自身によって能動的に発見されることで聖地化されるものである、という点です。既存の観光地や寺社が「聖地」となるような場合にしても、当該の場所が巡礼者らにとって重要であるのは、あくまでもそこが自分の好きな作品と関連する場所だからなのです。たとえば宗教社会学的な観点から聖地巡礼を論じた今井信治は、「ファンが日常を「聖化」する」と題した論文のなかで、「ファンが作品をきっかけにしてアニメなどの舞台に「聖地」という意味づけを行っている」のだと述べ、また「その場所をオーソライズするものは、「聖地巡礼」を行う同好の士しかない」と指摘しています。

④ また現代的な聖地は、「巡礼者が暮らす現実の世界」と「架空の物語世界」という二つの異世界を結び結節点の役割を担っている、という点も重要でしょう。コンテンツ・ツーリズムを専門とする岡本健は、雑誌『ユリイカ』の二〇一六年九月臨時増刊号（総特集・アイドルアニメ）に掲載された「あいどるたちのいるところ」という文章のなかで、アニメ聖地巡礼を「キャ

ラクターや、キャラクターが生きる世界を感じるために」、虚構空間との「接点」に向けて移動する行為として説明しています。
 b 清水強志と佐藤和雄も論文「アニメ文化の受容——アニメ聖地巡礼」のなかで、聖地巡礼に関する先行研究をレビューしつつ、観光研究の文脈に立つ従来の諸研究が「基本的には作品内における架空の場所と現実の場所との接点をめぐる行為であるという認識」を前提としてきた、と指摘しています。巡礼者たちは現実世界上に存在する聖地を一種のゲートとして、その先に広がる異世界に思いを馳せ、あるいはその風を感じるのです。

5 以上に述べてきた現代的な聖地巡礼ですが、その性格は童謡・唱歌をめぐる具象化の実践と重なる部分が多いように思われます。童謡・唱歌をめぐるインデックスは、それとして発見・特定されるまでは、たゞの（歴史的に聖別されてきたわけではない）山や川や海岸や垣根だったのであり、また同地を訪れた人々はそれらインデックスを接点として虚構的な「日本人の心のふるさと」（それもまた一種の物語世界です）へと思いを馳せるのでした。
 c 細部にまで目を配れば相違点もいろいろ出てくるのですが、それでもアニメにおける聖地と童謡・唱歌のインデックスとは、「現代的なサブカルチャー／古く懐かしい歌の世界」、という
 d 的な印象の相違に反して、意外に近しい関係にあると言ってよさそうです。

6 さて、ここまでは聖地巡礼という実践に絡めつつ童謡・唱歌におけるインデックスの性格を考えてきましたが、以下、それとはまったく異なる別の観点からもインデックスの特徴を捉え返してみたいと思います。その際のキーワードは「シミュラクル」です。童謡・唱歌のインデックスは、それによって指し示される「日本人の心のふるさと」が本質的に虚構であるがゆえに、シミュラクルとしての性格を強く帯びるようになる、と考えられます。

7 シミュラクルとは、J・ボードリヤールらの思想を通じて知られるようになった言葉ですが、今日一般的には「オリジナルなきコピー」といった意味の概念として使われています。本来、コピーとは何らかのオリジナルを模して作られるものですが、そうした準拠すべきオリジナルを持たず、ただなんとなくとくそれらしいイメージに沿って作られた記号がシミュラクルです。オリジナルに従属することを余儀なくされるコピーに比して、オリジナルを持たないシミュラクルの在り方はそれだけ自由であり、またそれゆえに多くの場合、人々のニーズや理想に適合するよう形成されます。たとえば前節でデーヴィスの「集合的ノスタルジア」について見た際、デイズニーランドやデイズニーワールドの名前が挙がっていましたが、これらの施設は典型的なシミュラクルとして知られています。デイズニーランドのシンボルであるシンデレラ城を思い出してもらおう

が一番手っ取り早いでしょう。この城は、ヨーロッパ各地に存在する具体的ななどの城のコピーでもありません（ドイツのノイシュヴァンシュタイン城がモデルとされることがありますが、そっくりそのままのコピーではありません）。そうではなく、シンデレラ城は人々が抱く「お姫様が暮らす夢のお城」のイメージを端的に集約し具現化した存在、つまりオリジナルのないコピー＝シミュラクルなのです。

8 翻つて、童謡・唱歌における具象化されたインデックスは、^(四) 具体的・個別的な「私」や「あなた」の記憶とは合致しないにもかかわらず、なんとなく日本人なら分かるよね、という緩やかな共感に沿って、「心のふるさと」という存在しない空白を想像的に埋め合わせるものです。本章を通じて見てきたインデックスも、その多くが「日本人の心のふるさと」というイメージに適合的であり、それゆえ多くの人にとつて一種のシミュラクルであると評せそうです。

9 では具象化のインデックスがふるさとのシミュラクルであるとして、その事実はいったい何を意味するのか。繰り返すところ、シミュラクルはオリジナルを必要としません。そしてこの原則は、童謡・唱歌をめぐるインデックスにも（それがシミュラクルである限りにおいて）そのままではまります。つまりシミュラクルとしてのインデックスに対して、オリジナルに相当する内容（歌に描かれた風景や出来事）がかつてそこに本当に存在したのかと問うことは、実は決定的に重要な意味を持たないのです。

10 ここからは、なぜ童謡・唱歌の具象化に関する言説の多くが真相・深層の究明という姿勢を打ち出しているにもかかわらず、それを受け止める社会の意識が科学的に徹底したものになりにくいのか、という問題の答えも見えてきます。シミュラクルとしてのインデックスはおそらく、^(五) オリジナルを突き止めようとする厳密な歴史考証の欲望とは異なる原理で人々に受容・消費されているのです。

（井手口彰典『童謡の百年』から）

(注)

- ・童謡・唱歌における具象化の試み⇨童謡・唱歌の歌詞に登場する場所などを現実の土地などと結びつけること。
- ・オーソライズ⇨公認すること。

・J・ボードリヤール⇨ジャン・ボードリヤール。哲学者。

・デーヴィス⇨フレッド・デーヴィス。社会学者。著書に『ノスタルジアの社会学』がある。

問一 傍線部(一)「具象」の適切な対義語を漢字二字で、解答欄に記入しなさい。【記述解答】

問二 空欄 a c に当てはまる言葉として最も適切なものを、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選びなさい。

- い。 a ⑨ b ⑩ c ⑪

- 1 また 2 したがって 3 つまり 4 もちろん 5 なぜなら

問三 傍線部(二)について、アニメにおける聖地と童謡・唱歌のインデックスの類似点とはどのようなことか。次の空欄 X

Y に当てはまる形で、それぞれ七字以上十字以内で解答欄に記入しなさい。【記述解答】

鑑賞者によって X ここで特別な場所となり、その場所が Y をつなぐ結節点となること。

問四 空欄 d に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。 ⑫

- 1 段階 2 表層 3 具体 4 現代 5 日常

問五 傍線部(三)について、本文における「シンデレラ城」の説明として適切でないものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

13

- 1 シンデレラ城は人々が思い描くイメージを集約し具現化した存在である。
- 2 シンデレラ城は現実存在する個別的・具体的な城のコピーではない。
- 3 シンデレラ城はディズニーランドのイメージを代表して示す建物である。
- 4 シンデレラ城は人々の個別的・具体的な記憶を強化し、明確化する建物である。

問六 傍線部(四)について、童謡・唱歌における具象化されたインデックスが、人々の記憶に合致しないにもかかわらず、多くの

人に「心のふるさと」を感じさせるのはなぜか。次の空欄 Z に当てはまる形で、十五字以内で本文から抜き出し解答欄に記入しなさい。【記述解答】

シミュラクルはオリジナルが不在であり、それを参照できないためにかえって Z もになるから。

問七 傍線部(五)の「欲望」に基づく行動の例として適切でないものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。 14

- 1 様々な童謡・唱歌に登場する地名や人名のイメージを集約し、オリジナルの「日本人の心のふるさと」のイメージを明確化しようとする。
- 2 童謡・唱歌に登場する地名や人名などのモデルを、作詞家や作曲家本人をはじめとする関係者へのインタビューなどを通して特定しようとする。
- 3 すでに特定されたとされる童謡・唱歌のモデルとなった地名や人名について、それが妥当かどうか批判的に検証すること。
- 4 現実世界に存在した風景や出来事が歌に描かれていると考え、様々な文献資料を調査してそれを探しだそうとすること。

問八

本文を内容に注目して二つに分けた場合、後半とされる内容はどの段落から始まるか。最も適切な段落を、次の1～10の中から一つ選びなさい。

⑮

1 ①

2 ②

3 ③

4 ④

5 ⑤

6 ⑥

7 ⑦

8 ⑧

9 ⑨

10 ⑩

問九

本文の内容の説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑯

1 宗教的な聖地巡礼とアニメの聖地巡礼は、寺院や教会などの宗教的施設が特に重要視されるという点で共通する。

2 ある場所がアニメの「聖地」として把握されるためには、その場所がアニメの舞台として作品内に登場することが必須である。

3 童謡・唱歌の具象化の言説が流布する過程では、虚構的な「日本人の心のふるさと」のイメージとの整合性が最も重視される。

4 近年では童謡・唱歌が歌われる機会が減少したため、歌詞にある場所を特定する具象化の試み自体が少なくなった。